

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫発生予察注意報第5号について

令和元年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

令和元年度病害虫発生予察注意報第5号

発生量の増加により被害果の発生が懸念されます。
防除対策の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : ヒラズハナアザミウマ
- 2 作物名 : 冬春ピーマン
- 3 発生地域 : 県下全域
- 4 発生量 : 多
- 5 注意報の根拠

1) 11月中旬の巡回調査における発生面積率は81.9%（前年83.3%、平年46.3%）（図1）で平年比やや多、10花当たり虫数は25.8頭（前年6.4頭、平年6.1頭）（図2）で平年比多、寄生花率は38.9%（前年24.3%、平年15.3%）（図3）で平年比多の発生であった。

10花当たり虫数と寄生花率については過去10年で最も高くなっている。

2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高い傾向であると予想されており、ヒラズハナアザミウマの増殖に好適な条件が続くと考えられる。（鹿児島地方気象台11月21日発表1ヶ月予報）。

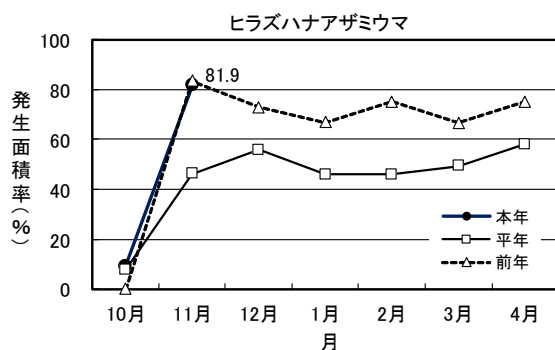


図1 発生面積率の推移

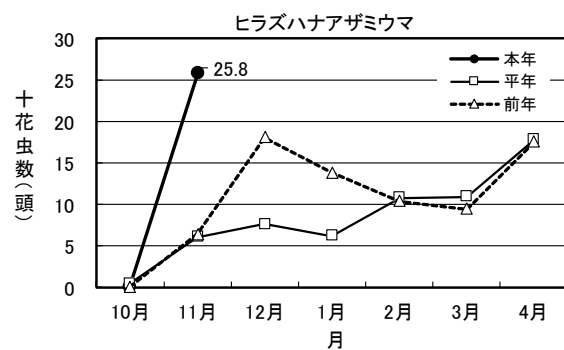


図2 10花当たり虫数の推移

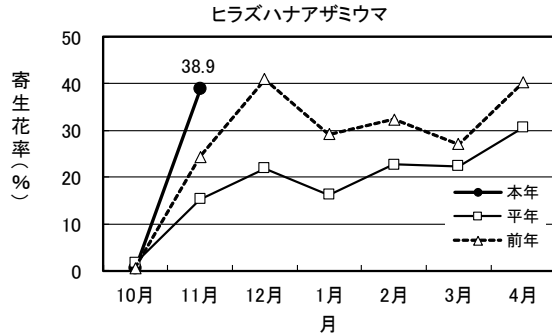


図3 寄生花率の推移

6 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。特にミナミキイロアザミウマに対し天敵スワルスキーカブリダニを導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、特に卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発時は更に連続した防除を徹底する。
- 3) ヒラズハナアザミウマは、主に花の内部に生息することから、薬剤防除は、薬液が花の内部にしっかり付着するように行う。また、薬剤の付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 4) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択は注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤・展着剤を選択する。
- 5) ピーマンの花数が減少する時期が防除適期となるので、この時期を逃さず、防除の徹底を図る。
- 6) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- 7) 青色粘着トラップを生長点付近に200枚以上/10a設置し、誘殺による密度低下を図る。
ただし、株が繁茂する前に設置しないと効果が十分に得られない場合があるので、早めに設置する。

7 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 （病害虫防除・肥料検査センター） 黒木、松浦
 TEL：0985-73-6670 FAX：0985-73-2127
 E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp